

笑顔いっぱい

冬号
(第54号)

発行日/平成30年1月1日

発行・編集

福島生協病院広報委員会
広島市西区福島町1丁目24番7号
TEL082-292-3171(代)

ホームページアドレス

<http://www.hch.coop/fukushima/>

新年のご挨拶

広島中央保健生活協同組合 看護部長 岡田 博美

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましても新たな気持ちで迎えられた年ではないかと思えます。

私事ではありますが2017年11月をもって福島生協病院の総看護師長を退任致しました。2011年8月に介護事業部から福島生協病院へ異動となり新病院建設に携わり職員一丸となって念願の新病院建設を実現することが出来ました。建設運動の中で内科クリニックを統合したり、7対1病棟を急ぎ地域包括ケア病棟に転換したりと診療報酬改定に左右されました。新病院の3つの魅力を討議した時、田代院長が「医療と介護、地域連携の…要、要という文言が良い!!」と言われ「要」となったのも懐かしエピソードです。新病院へ引っ越しをする時もあいにくの雨降りでブルーシートで患者さんが濡れないよう保護しながら移送したのもつい昨日の事のように思い出されます。新病院となり地域連携が重要で連携室・相談室を中心とした西区安心ネットの取り組みや認知症短期集中支援事業への参加を通して西区の中でも重要な役割を担う病院になってきていると思います。2018年は診療報酬・介護報酬のダブル改定の年です。福島生協病院においては7対1から10対1看護体制に転換せざるを得ない厳しい改定が待ち受けています。厳しい荒波の中、患者さんの立場に立つ事は容易ではないと思いますが、患者さんの立場に立った医療・看護を実践して地域の人々や職員に選ばれる病院となる事を願っております。これからは看護部長として広島中央保健生協の地域包括ケア構想を看護部の立場から推進していきたいと考えています。

2018年は戌年です。医療・介護を取り巻く情勢は厳しく「惑星直列」と呼ばれています。そんな厳しい情勢に耐え「いぬ」にかけてワンダフルな一年にして行きましょう。

福島生協病院 総師長 谷 宏美

新年明けましておめでとうございます。

昨年11月16日付けにて、福島生協病院総看護師長の任命を受けました、谷 と申します。よろしくお願いたします。これまで、生協さえき病院にて総看護師長をしておりましたが12年ぶりに異動してまいりました。元々入職は福島生協病院でしたが、いざ異動してみると、職員の皆さんの名前も顔もほとんどわからず、皆さんにご迷惑をおかけしている次第です。変化したニュー福島生協病院に早く慣れるよう頑張ります。

「医療」は日々進歩しています。診療技術や検査内容なども向上しています。なるべく早く知識に出来るよう努力したいと思います。「看護」も複雑になりケアだけでなく院内外での連携やカンファレンス、沢山の書式への記入など業務範囲が広がっています。国の方針として、病院機能の変更を余儀なくされ急性期病床は削減されていきます。福島生協病院も急性期から回復期、退院支援の病床へと2年前に変更していきました。入院前から患者さんの情報を得て素早く問題点を知り共有する。そして、できるだけ早くに退院が出来るような連携が鍵となります。

しかし、看護専門職としてどのように患者さんと向き合うのかを考えなくてはなりません。疾患だけでなく精神的、社会的に自立できる環境があつてこそ「いのち」が守られるのだと思います。私たちはそれを忘れてはいけません。

病院の基本理念である「私たちは患者さんの立場に立った医療を実践します」を常に基軸とし、「私たちは、地域の人々のいのちの尊厳と人権を守ります」という看護部の理念を実践していきたいと思えます。

認知症学習会を開催しました

福島生協病院 認知症ケアチーム

近年、認知症高齢者数は増加傾向にあり、2012年には462万人、2025年には約700万人に達すると想定されています。今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気となっています。認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すことが、認知症施策推進総合戦略の目的となっています。また、早期診断・早期対応を軸に「本人主体」を基本とした医療・介護等の連携により、その時の容態に最もふさわしい場所で医療・介護等が提供される循環型の仕組みを実現することが求められています。

当院でも入院早期から退院後の地域における生活を考慮した支援を行うため、2017年4月に認知症ケアチームを発足しました。認知症ケアチームでは現在、看護部を主体として活動を行っています。

今回、認知症についての知識や理解を深めることを目的として、学習会を開催しました。草津病院精神科医師の戸谷脩二医師をお招きし、「認知症の理解」についてご講義頂きました。勤務終了後ではありましたが、60名の職員の参加がありました。認知症にはどのような種類があるのか、どのような予防法や症状があるのか、それに対する治療はどのようなものかなどについて分かりやすくお話頂き、詳しく学ぶことができました。認知症の原因となり得る疾患は多岐にわたり、50以上の疾患がわかっています。認知症は、「アルツハイマー型認知症」「血管性認知症」「レビー小体型認知症」「前頭側頭葉変性症」の4つに大きくは分類されます。それぞれ症状や特徴が異なり、治療も異なってきます。認知症と診断されるまでの期間も含め、診断された後も、本人や家族も戸惑い、苦しむことが多くあります。それに対し、偏見を持たず、どのような対応が求められるのか、知ることができました。学習会の会場でも質問や意見交換が活発に行われました。認知症の方と関わることはありますが、日頃からの疑問や思いを解決することができ、共感できたのではないかと思います。

これから1年間に2回の学習会を計画しています。今年度はもう1度学習会を行う予定です。今後は、看護部だけではなく、多職種も関わってもらい認知症ケアチームの活動を行っていきたいと思っています。入院患者様も認知症の方が増加しています。認知症の症状で対応に困ることもあるかもしれませんが、少しでも本人や家族が安心して入院生活を送ることができるように、知識を深め、認知症患者様に寄り添ったケアができるよう、スタッフ全員で成長していきたいと思っています。



骨密度測定装置を更新しました

福島生協病院 放射線科長 山田 勝幸

骨密度とは骨塩量や骨塩定量、骨量とも呼ばれることがあり、骨の密度を表しています。高齢化社会に伴い、骨折の原因となる骨粗鬆症への関心が高まっております。

骨はコラーゲンやミネラルなどの成分でつくられており、骨代謝により新しい骨に生まれ変わっていますが、骨密度が減少すると骨が弱くなり折れやすくなります。

X線骨密度測定装置は、骨粗鬆症の診療に威力を発揮します。当院では、2007年11月よりX線骨密度測定装置を導入しました。この装置は、測定精度が良好で、再現性も良い、DXA法（二重エネルギーX線吸収法）を用いて測定する装置です。DXA法とは二種類の異なるエネルギーのX線を用いることによって、骨のまわりの筋肉や脂肪に関係なく、骨成分だけを測定する方法です。

実際の検査は、腰椎のみか、または腰椎と大腿骨頸部の2か所を測定します。検査は仰向けに寝ていただいた状態で行います。測定中は息を止める必要はありません。体を動かさずに寝ていただくだけです。また、被曝線量も胸部X線撮影の10分の1程度とごくわずかで、患者さんにとって安全な装置です。

昨年9月に、当院のX線骨密度測定装置が新しくなりました。製品名はCholare（コラル）、GEヘルスケアジャパン社製です。これまでの装置は約10年間使用してきて、故障も多くなってきたため今回更新となりました。前と同じくDXA法を使用した装置です。

新しい装置の特徴は次の通りです。

- 検査時間が短縮されます。
これまでの装置では、部位や患者さんの体格により差はありますが、1部位に約3分から6分の検査時間を要していました。これが、各部位とも約1分となります。検査時間が短くなることで、患者様の負担軽減になります。
- 画質改善による精度の向上
これまでより画質が改善され、解析の精度も向上します。
- 過去データの移管
骨密度測定値は、機種や測定方法が異なると比較することができません。今回は同一メーカーの同系統の機種ですので、過去の検査データはそのまま移管されます。

健診で行っている「骨粗鬆症検診（DXA法）」（腰椎のみ）の料金ですが、一般¥3,890、組合員¥2,720としています。広島市の制度では、市内在住の女性は20歳から、男性は40歳から5歳きざみ（40、45、50…）で¥1,200で受診できます。70歳以上は無料です。特に市への申込みは不要です。骨検診だけであれば、全体の予約が多くなければ当日申し込みでも受けられます。



新しく購入した超音波診断装置について

福島生協病院 臨床検査科副主任 脇本 明美

組合員皆様の出資金の一部を元に超音波診断装置を昨年11月上旬に購入することができました。

画質が向上し、超音波では水の成分は黒く写るのですが、よりすっきりとした黒に描出できるようになりました。

以前のものは心臓超音波検査のみ検査できる専用機でしたが、今回は心臓、腹部、血管の検査ができる汎用機を購入しました。同日に2カ所の超音波検査がある方が検査室を移動することなく、心臓超音波に続けて腹部超音波をしたり、血管超音波をすることが可能になりました。移動が難しい方には便利になりました。超音波診断装置は熱が発生するため、検査中はファンを回して放熱しなければならず機械音が大きかったのですが、今回の装置は機械音が小さくなり、より患者様に技師からの話す声が聞き取りやすくなったと思われます。液晶画面で画面も大きくなり見えやすくなりました。

私達、超音波担当臨床検査技師も装置の向上とともに、皆様の診断に役立つデータを提供できるよう努めていきます。



●基本理念●

私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

基本方針

1. インフォームド・コンセント(説明と意思決定)を重視し、信頼される医療を提供します。
2. 教育・研修活動をすすめ、医療、看護、接遇の向上につとめます。
3. 地域の人々とともに、医療、福祉、介護のネットワークづくりをすすめます。

編集 委員 通信



- ・明けましておめでとうございます。心機一転頑張りますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。(A)
- ・明けましておめでとうございます。カープ球団初の3連覇へ向けた年が始まりますね。今年は何試合観戦に行けるか…。(N)
- ・新年を迎え、気持ちを新たに何か挑戦してみよう。と毎年思っています…。(I)
- ・昨年12月に白内障の手術を受けました。くもりガラス越しに見えていた風景がクリアになりました。今年も、もう片方も。(E)